

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年11月7日
【四半期会計期間】	第58期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社グルメ杵屋
【英訳名】	GOURMET KINEYA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 CEO 棕本 充士
【本店の所在の場所】	大阪市住之江区北加賀屋三丁目4番7号
【電話番号】	06-6683-1222(代)
【事務連絡者氏名】	管理部長 経理担当 大西 由美
【最寄りの連絡場所】	大阪市住之江区北加賀屋三丁目4番7号
【電話番号】	06-6683-1222(代)
【事務連絡者氏名】	管理部長 経理担当 大西 由美
【縦覧に供する場所】	株式会社グルメ杵屋東京本部 （東京都港区東新橋二丁目9番1号 CIRCLES汐留3F） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第57期 第2四半期連結 累計期間	第58期 第2四半期連結 累計期間	第57期
会計期間		自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高	(百万円)	13,048	16,811	29,894
経常損失( )	(百万円)	620	323	477
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失( )	(百万円)	809	434	1,150
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	767	377	1,149
純資産額	(百万円)	8,313	8,216	7,838
総資産額	(百万円)	38,162	38,852	38,828
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり四半期(当期)純損失( )	(円)	35.37	18.99	50.32
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	21.07	20.77	19.79
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,407	1,229	483
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	46	990	233
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	608	354	92
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高	(百万円)	10,363	11,990	12,583

回次		第57期 第2四半期 連結会計期間	第58期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり四半期純損失( )	(円)	17.44	24.31

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

レストラン事業において、当社の連結子会社であった(株)壱番亭本部は、同じく当社の連結子会社である(株)雪村を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。なお、存続会社である(株)雪村は、合併後に(株)ゆきむら壱番亭に商号変更しております。この結果、2023年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社7社及び持分法適用関連会社1社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へと移行したこと等に伴い、経済活動の正常化を背景に人流及びインバウンド需要も増加し、景気は緩やかに回復してきております。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化等からエネルギーや原材料価格など物価の上昇に加え、世界的な金融引き締め等による海外景気の下振れリスク等もあり、先行きは依然不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は収まったものの、継続する原材料、光熱費等様々なコストの上昇、さらに人手不足による人件費の増加など、引き続き厳しい経営環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループはグループ一丸となって事業収益のV字回復を果たすため、戦略構築と実行を徹底し、企業風土の改革を希求してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高168億11百万円（前年同期比37億62百万円増）、営業損失2億87百万円（前年同期は営業損失5億92百万円）、経常損失3億23百万円（前年同期は経常損失6億200百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億34百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失8億9百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

#### (レストラン事業)

レストラン事業においては、EBITDA（償却前利益）とROI（投資回収率）を重視し、利益が見込める新規出店に投資を集中する方針のもと、7月及び8月には住宅街に大型の路面店を出店致しました。既存店舗においては人流の回復やインバウンド需要の再開により売上は順調に回復しております。また、店長のKPI評価や労働生産性プロジェクトを導入し省人化等の業務改善も推進しております。

その結果、新店はそば部門の「おらが蕎麦」3店舗、アジア部門その他の「シジャン」5店舗、「solege」2店舗、「ゆきむら亭」2店舗の合計12店舗であります。業態変更は5店舗、退店は10店舗であります。この結果、当第2四半期連結会計期間末におけるレストラン事業の店舗数は、36都道府県に405店舗（フランチャイズ店舗95店舗を含む）となりました。

以上の結果、レストラン事業の売上高は114億13百万円（前年同期比21.4%増）、セグメント利益2億82百万円（前年同期は1億8百万円の損失）となりました。

#### (機内食事業)

㈱エイエイエスケータリングにおいては、中国便等の国際線の航空需要が回復途上のため搭載食数の回復が遅れていることから、増収ではありますが賃借料等のコスト増により減益となりました。

以上の結果、機内食事業の売上高は14億50百万円（前年同期比151.5%増）、セグメント損失3億33百万円（前年同期は1億50百万円の損失）となりました。

#### (業務用冷凍食品製造事業)

㈱アサヒウェルネスフーズにおいては、冷凍弁当及び季節品のおせち等の製造が増加したことから増収増益となりました。

以上の結果、業務用冷凍食品製造事業の売上高は21億72百万円（前年同期比53.9%増）、セグメント損失1億15百万円（前年同期は1億35百万円の損失）となりました。

#### (不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業においては、大阪木津卸売市場の入居率はほぼ前年同期並みであります。修繕費等のコスト増により減収減益となりました。

以上の結果、不動産賃貸事業の売上高は3億44百万円（前年同期比0.1%減）、セグメント利益1億20百万円（前年同期は1億23百万円の利益）となりました。

#### (運輸事業)

水間鉄道㈱においては、沿線地域でのイベントの開催等に取り組むことで旅客数が増加し、増収増益となりました。

以上の結果、運輸事業の売上高は2億10百万円（前年同期比6.5%増）、セグメント損失18百万円（前年同期は21百万円の損失）となりました。

#### (その他)

大阪木津卸売市場で展開しております水産物卸売事業は、魚介の卸売数量が増加したことから増収増益となりました。日本食糧卸(株)で展開しております米穀卸売事業は、米の販売数量は増加しましたが炊飯事業の販売数量の減少や材料費の増加等により増収減益となりました。

以上の結果、その他の売上高は12億20百万円（前年同期比9.6%増）、セグメント損失41百万円（前年同期は9百万円の損失）となりました。

財政状態につきましては、次のとおりです。

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は167億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億95百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金5億92百万円の減少、売掛金4億51百万円の増加、商品及び製品11億33百万円の増加によるものであります。固定資産は220億55百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億71百万円減少いたしました。これは主に土地4億83百万円及び投資有価証券3億円の減少によるものであります。

この結果、総資産は、388億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ23百万円増加いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は89億86百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億76百万円増加いたしました。これは主に短期借入金13億40百万円の増加及び1年内返済予定の長期借入金2億26百万円の減少によるものであります。固定負債は216億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億30百万円減少いたしました。これは主に長期借入金14億66百万円の減少によるものであります。

この結果、負債合計は、306億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億53百万円減少いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は82億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億77百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益4億34百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は20.8%（前連結会計年度末は19.8%）となりました。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5億92百万円減少し、119億90百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが12億29百万円の支出（前年同期は14億7百万円の支出）、投資活動によるキャッシュ・フローが9億90百万円の収入（前年同期は46百万円の支出）、財務活動によるキャッシュ・フローが3億54百万円の支出（前年同期は6億8百万円の支出）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前四半期純利益5億30百万円、減価償却費5億17百万円、棚卸資産の増加額11億63百万円等を反映したものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得による支出8億49百万円、有形固定資産の売却による収入15億55百万円等を反映したものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

短期借入れによる収入13億40百万円、長期借入金の返済による支出17億83百万円等を反映したものであります。

（3）経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

（4）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

（5）研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,910,275	22,910,275	㈱東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	22,910,275	22,910,275	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	22,910,275	-	100,000	-	6,766,590

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数 に対する所有株式数の 割合(%)
株式会社MUKUMOTO	大阪市住吉区清水丘3丁目11-15	5,745	25.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,304	5.70
棕本 充士	大阪市住吉区	1,048	4.58
西脇 あづさ	大阪市住吉区	852	3.73
棕本 裕子	大阪市住吉区	660	2.89
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-12	457	2.00
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1丁目23-1	422	1.84
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	356	1.56
サントリー株式会社	東京都港区台場2丁目3-3	322	1.41
株式会社紀陽銀行	和歌山県和歌山市本町1丁目35番地	278	1.22
計	-	11,446	50.04

(注) 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、株式会社日本カストディ銀行(信託口4)のうち、信託業務に係る株式数は、それぞれ1,304千株、457千株であります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 36,200	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,863,300	228,633	-
単元未満株式	普通株式 10,775	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	22,910,275	-	-
総株主の議決権	-	228,633	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権の数50個)含まれております。なお、証券保管振替機構名義の株式5,000株(議決権の数50個)については、名義書換失念株式になっております。

2. 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の 割合(%)
株式会社グルメ杵屋	大阪市住之江区北加賀屋三丁目4番7号	36,200	-	36,200	0.16
計	-	36,200	-	36,200	0.16

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、桜橋監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,583,388	11,990,541
預け金	481,206	451,948
売掛金	1,488,036	1,940,008
商品及び製品	456,277	1,589,722
原材料及び貯蔵品	319,143	349,356
短期貸付金	179	59
未収入金	288,577	85,785
未収消費税等	21,788	146,555
その他	163,423	243,380
貸倒引当金	1,261	1,235
流動資産合計	15,800,758	16,796,123
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	28,341,330	28,214,287
減価償却累計額	21,063,465	21,181,489
建物及び構築物(純額)	7,277,864	7,032,798
機械装置及び運搬具	3,296,267	3,299,110
減価償却累計額	2,439,428	2,497,197
機械装置及び運搬具(純額)	856,839	801,912
工具、器具及び備品	1,985,256	2,067,666
減価償却累計額	1,576,591	1,592,662
工具、器具及び備品(純額)	408,665	475,003
土地	8,210,084	7,726,211
建設仮勘定	74,587	74,966
有形固定資産合計	16,828,041	16,110,892
無形固定資産		
のれん	262,738	230,019
その他	60,413	91,445
無形固定資産合計	323,152	321,465
投資その他の資産		
投資有価証券	1,223,293	922,463
長期貸付金	116,607	167,067
差入保証金	4,402,066	4,346,059
繰延税金資産	32,079	65,217
その他	120,982	141,270
貸倒引当金	18,438	18,438
投資その他の資産合計	5,876,589	5,623,639
固定資産合計	23,027,784	22,055,997
資産合計	38,828,543	38,852,120

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,137,694	1,164,257
短期借入金	500,000	1,840,000
1年内返済予定の長期借入金	2 3,372,602	2 3,145,889
未払金	535,610	385,163
未払費用	1,237,000	1,422,628
未払法人税等	27,035	87,704
未払消費税等	384,508	270,704
賞与引当金	134,731	115,661
資産除去債務	88,831	91,908
その他	391,370	462,172
流動負債合計	7,809,385	8,986,089
固定負債		
長期借入金	2 19,522,999	2 18,056,624
長期未払金	8,056	8,056
繰延税金負債	1,464,135	1,423,534
退職給付に係る負債	120,833	89,427
資産除去債務	1,285,808	1,311,926
その他	778,347	760,268
固定負債合計	23,180,180	21,649,837
負債合計	30,989,565	30,635,927
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	12,534,726	8,345,313
利益剰余金	5,103,525	479,620
自己株式	35,381	35,493
株主資本合計	7,495,820	7,930,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	185,095	120,489
為替換算調整勘定	3,963	19,528
退職給付に係る調整累計額	530	286
その他の包括利益累計額合計	188,527	139,732
非支配株主持分	154,628	146,262
純資産合計	7,838,977	8,216,193
負債純資産合計	38,828,543	38,852,120

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	13,048,817	16,811,775
売上原価	8,107,817	10,743,823
売上総利益	4,940,999	6,067,951
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 5,533,102	<sup>1</sup> 6,355,054
営業損失( )	592,102	287,102
営業外収益		
受取利息	479	2,466
受取配当金	22,581	29,464
投資有価証券売却益	-	70
賃貸料収入	86,895	76,653
その他	47,012	39,289
営業外収益合計	156,968	147,944
営業外費用		
支払利息	87,649	85,292
借入手数料	1,000	1,000
賃貸費用	57,905	39,064
持分法による投資損失	22,494	45,402
その他	16,697	13,760
営業外費用合計	185,747	184,519
経常損失( )	620,881	323,677
特別利益		
固定資産売却益	-	689,720
投資有価証券売却益	-	173,724
助成金収入	<sup>2</sup> 57,750	<sup>2</sup> 2,567
受取補償金	85,160	-
保険解約益	50,117	-
その他	1,095	-
特別利益合計	194,123	866,011
特別損失		
固定資産除却損	45,865	5,987
減損損失	6,588	5,017
投資有価証券評価損	-	999
新型コロナウイルス感染症による損失	<sup>3</sup> 360,738	-
その他	4,732	-
特別損失合計	417,924	12,005
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	844,682	530,328
法人税等	34,713	110,106
四半期純利益又は四半期純損失( )	809,968	420,221
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	917	14,269
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	809,051	434,491

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	809,968	420,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,832	66,406
為替換算調整勘定	30,209	22,744
退職給付に係る調整額	174	244
持分法適用会社に対する持分相当額	7,104	554
その他の包括利益合計	42,320	42,863
四半期包括利益	767,648	377,358
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	777,648	385,695
非支配株主に係る四半期包括利益	10,000	8,337

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	844,682	530,328
減価償却費	515,953	517,112
減損損失	6,588	5,017
のれん償却額	32,719	32,719
長期前払費用償却額	11,472	14,766
賞与引当金の増減額( は減少)	304	19,069
貸倒引当金の増減額( は減少)	18	26
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	1,185	31,160
受取利息及び受取配当金	23,060	31,930
支払利息	87,649	85,292
助成金収入	57,750	2,567
受取補償金	85,160	-
保険解約損益( は益)	50,117	-
投資有価証券売却損益( は益)	-	173,724
持分法による投資損益( は益)	22,494	45,402
固定資産除却損	45,865	5,987
固定資産売却損益( は益)	-	689,720
売上債権の増減額( は増加)	299,961	421,894
棚卸資産の増減額( は増加)	1,051,280	1,163,658
仕入債務の増減額( は減少)	82,079	26,563
未払費用の増減額( は減少)	21,627	186,758
未収消費税等の増減額( は増加)	120,219	124,766
未払消費税等の増減額( は減少)	48,229	113,804
長期未払金の増減額( は減少)	300,000	-
その他	11,922	5,175
<b>小計</b>	<b>2,067,444</b>	<b>1,317,199</b>
利息及び配当金の受取額	23,060	31,930
利息の支払額	87,707	85,718
助成金の受取額	866,787	28,556
補償金の受取額	85,160	-
法人税の支払額または還付額( は支払)	227,166	113,366
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,407,310</b>	<b>1,229,064</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
補助金の受取額	82,905	24,282
有形固定資産の取得による支出	604,698	849,609
無形固定資産の取得による支出	2,973	46,272
長期前払費用の取得による支出	1,555	34,756
店舗撤去に伴う支出	54,967	14,693
有形固定資産の売却による収入	-	1,555,244
投資有価証券の売却による収入	115,882	352,180
貸付けによる支出	57,747	845
貸付金の回収による収入	1,501	119
差入保証金の差入による支出	54,854	53,333
差入保証金の回収による収入	126,156	58,193
保険積立金の払戻による収入	402,587	-
その他	985	-
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>46,778</b>	<b>990,510</b>

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	930,000	1,340,000
長期借入れによる収入	287,800	89,000
長期借入金の返済による支出	1,796,413	1,783,087
社債の償還による支出	30,000	-
配当金の支払額	224	315
自己株式の取得による支出	-	112
財務活動によるキャッシュ・フロー	608,838	354,515
現金及び現金同等物に係る換算差額	246	222
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,062,679	592,847
現金及び現金同等物の期首残高	12,425,796	12,583,388
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,363,116	11,990,541

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった㈱壱番亭本部は、同じく当社の連結子会社である㈱雪村を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。なお、存続会社である㈱雪村は、合併後に㈱ゆきむら壱番亭に商号変更しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

他の会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会	358,800千円	346,740千円

2 財務制限条項

(1) 当社は、2018年6月26日付で㈱三井住友銀行をアレンジャーとする、既存取引行4行によるコミット型シンジケートローン契約を締結しております。この契約には、以下の財務制限条項が付されております。

2019年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における(但し、2021年3月期は除く)、単体及び連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額に㈱日本政策投資銀行より調達した2021年11月30日付劣後特約付金銭消費貸借契約に基づく資本性劣後ローンの残存期間に応じた一定割合の残高(以下、本件劣後ローンみなし残高という。)の合計金額を加えた金額を、当該事業年度の直前の単体及び連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額に本件劣後ローンみなし残高の合計金額を加えた金額の75%に相当する金額以上に単体又は連結のいずれかが維持すること

2019年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における(但し、2021年3月期は除く)、単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと

上記財務制限条項のほか、担保制限条項が付されております。

(2) 当社は、2021年3月26日付けで㈱三井住友銀行をアレンジャー、㈱三菱UFJ銀行をジョイント・アレンジャーとする、既存取引行9行によるコミット型シンジケートローン契約を締結しております。この契約には、以下の財務制限条項が付されております。

2021年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における単体の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額に本件劣後ローンみなし残高の合計金額を加えた金額を、負の値としないこと

2021年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額に本件劣後ローンみなし残高の合計金額を加えた金額を、負の値としないこと

上記財務制限条項のほか、担保制限条項が付されております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
給料手当	2,180,694千円	2,573,694千円
賞与手当	8,323千円	48,539千円
賞与引当金繰入額	48,110千円	18,995千円
退職給付費用	13,073千円	15,581千円
消耗品費	36,715千円	61,721千円
賃借料	1,316,081千円	1,436,758千円
水道光熱費	185,756千円	201,939千円
減価償却費	235,376千円	240,414千円



- 2 助成金収入の内容は、前第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金及び時短要請協力金であります。当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金及び産業雇用安定助成金であります。
- 3 新型コロナウイルス感染症による損失の主な内訳は、前第2四半期連結累計期間において、機内食事業における航空会社の著しい減便による操業縮小に係る地代家賃及び人件費等であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	10,363,116千円	11,990,541千円
現金及び現金同等物	10,363,116千円	11,990,541千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変更

2022年6月28日開催の定時株主総会決議により、会社法第447条第1項の規定に基づき、2022年8月31日付で減資等の効力が発生しており、資本金の額を5,738,236千円減少させ、その他資本剰余金へ振り替えております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変更

当社は、2023年6月27日開催の当社株主総会において、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えることにより、繰越利益剰余金の欠損額の補填に充当することを内容とする剰余金の処分を行うことを決議し、同日付けで処分を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が4,189,413千円減少し、利益剰余金が同額増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	レストラン 事業	機内食 事業	業務用冷凍 食品製造 事業	不動産 賃貸事業	運輸事業	計				
売上高										
一時点で移転され る財	9,403,963	576,680	1,411,623	-	104,129	11,496,397	1,113,964	12,610,362	-	12,610,362
一定の期間にわた り移転される財	-	-	-	-	93,768	93,768	-	93,768	-	93,768
顧客との契約から 生じる収益	9,403,963	576,680	1,411,623	-	197,898	11,590,166	1,113,964	12,704,130	-	12,704,130
その他の収益	-	-	-	344,686	-	344,686	-	344,686	-	344,686
外部顧客に対する 売上高	9,403,963	576,680	1,411,623	344,686	197,898	11,934,853	1,113,964	13,048,817	-	13,048,817
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4,836	6,318	-	14,996	26,151	335,863	362,015	362,015	-
計	9,403,963	581,517	1,417,942	344,686	212,894	11,961,004	1,449,828	13,410,832	362,015	13,048,817
セグメント利益又は 損失( )	108,342	150,539	135,606	123,930	21,095	291,653	9,599	301,253	290,848	592,102

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、水産物卸売事業及び米穀卸売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 290,848千円は、主に各報告セグメントに配分していない  
全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	レストラン 事業	機内食 事業	業務用冷凍 食品製造 事業	不動産 賃貸事業	運輸事業	計				
売上高										
一時点で移転される財	11,413,442	1,450,213	2,172,463	-	114,930	15,151,050	1,220,440	16,371,490	-	16,371,490
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	-	95,791	95,791	-	95,791	-	95,791
顧客との契約から生じる収益	11,413,442	1,450,213	2,172,463	-	210,721	15,246,841	1,220,440	16,467,282	-	16,467,282
その他の収益	-	-	-	344,492	-	344,492	-	344,492	-	344,492
外部顧客に対する売上高	11,413,442	1,450,213	2,172,463	344,492	210,721	15,591,334	1,220,440	16,811,775	-	16,811,775
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	22,423	5,610	-	16,853	44,888	463,483	508,372	508,372	-
計	11,413,442	1,472,637	2,178,074	344,492	227,575	15,636,222	1,683,924	17,320,147	508,372	16,811,775
セグメント利益又は損失( )	282,567	333,483	115,388	120,101	18,104	64,307	41,542	105,850	181,252	287,102

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、水産物卸売事業及び米穀卸売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 181,252千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ( )	35円37銭	18円99銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失( )(千円)	809,051	434,491
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又 は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	809,051	434,491
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,874	22,874

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月7日

株式会社グルメ杵屋

取締役会 御中

桜橋監査法人

大阪府大阪市

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 川崎 健一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 宮崎 博

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社グルメ杵屋の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社グルメ杵屋及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的な手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかど

うか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。